



だより



R7.6.10 Vol.11

今は違う！

校内パトロール（実は校長の大切な仕事の一つです。）をしていると各教室から様々な声が聞こえてきます。またその空気感から教室の雰囲気も感じます。先日、5.6 年生教室の近くまでくると、ピリッとした雰囲気でした。教室の少し手前で様子を伺っていると、担任の先生が「それは今は違う！そんな場ではない。」細かい言葉までは覚えていませんが、そういう指導をしていました。怒鳴るわけではありませんが厳しめの口調です。とてもありがたいなと思いました。文献に目を通して、「**褒められた経験しかない子供は、より高度なものに挑戦をしなくなる**」そんな内容がありました。**褒めるべきは褒め、叱るべきは叱る**。このバランスはとても大切だと思います。この先生はこのバランス感覚にとても優れています。ですから叱られても、子供は萎縮するわけではありません。普段はとても楽しく毎日を過ごしています。信頼関係の中で叱ること、大切にしたいです。

されど九九！ですよー！！

前の便りに、「たかが九九 されど九九」というトピックを掲載しました。その後、いつもの校内パトロールをしていると、5年生が算数の学習をしていました。先生が「一段増えるごとにレンガが3つずつ増えていきます！」と問題説明をしていると、ある女の子が「あ！そしたらかけ算ですよー？」と一言。これってすごく大切な一言なんです。たし算を習う前は1つずつ数えます。たし算を習うと、3つずつ足します。かけ算を習うと3つずつ増えるという規則性があるなら、かけ算が速い！そういう思考になります。それを理解しているからこそ前述の一言（見通し）につながるわけです。

ここで九九をしっかりと覚えていることでより高度な問題を解いていくハードルがグッと下がります。



やはり、されど九九！ですよー！！

四方山話真穴 ver2. 其の十一（続・シン〇〇）

昨年度、シンスタンダードという書籍の内容について触れました。このシン〇〇、おそらくシン・ゴジラが始まりだと思います。（新、真、神…そんな意味があるのでしょうか？）今回は**シン読解力**という書籍の感想を四方山話そうと思います。この本はベストセラー「AI vs 教科書が読めない子どもたち」を書いた新井紀子さんの新著です。読んでいくと、ここ10年でAI技術が急速に進化していることに驚かされました。頭脳明晰な筆者が250ページ近くにわたって説明されている内容を私がこのスペースでお伝えすることは到底無理ですので、心に残ったことを少し紹介しますね。筆者曰く『まだ、みんながAIに慣れていないからで（中略）特に子供たちは、早いうちにAIと対話させておけばすぐに使いこなすようになるだろう。』という人たちはその前提となるスキルを甘く見積もり過ぎています。そのスキルこそがシン読解力です。『シン読解力とは何ぞや？』についてはまた機会があれば紹介しますが、この文面の内容は本質を突いていると私も強く思います。

今、教育のトレンドの中にデジタル活用や英語学習があります。必要になっていくことは間違いないでしょう。ただ、それらを使いこなしていくためには、まずは物事を考える力、**日本語で物事を読み解く力**がなければ非常に薄っぺらなツールにしかありません。例えば「I like dogs.（私は犬が好きです）」と言えたとしても。そこに「なんで？」と聞いたときに「何となく とか わからない」という答えが返ってきたら、それはまだ日本語で自分の考えを整理し、言葉にする力が育ってないということです。日本語で例えば「可愛いから」という思考と表現ができることで「Because…」そんな言葉が続いてくのではないのでしょうか。

さまざまな新しい流れが生まれますが、その中でしっかりと本流を見究めた指導を心がけていきたいです。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。